

ワークショップWS1-1 HBOによりレビー小体型認知症における認知機能の症状改善が示唆された一例

宮尾良和

社会医療法人令和会 熊本リハビリテーション病院 臨床工学科

【緒言】

低酸素血症がアルツハイマー型認知症(AD)の発症に影響を及ぼすことが知られており、高気圧酸素治療(HBO)によるAD患者の認知機能の改善が他学会等で報告されている。今回、HBOがレビー小体型認知症(DLB)の認知機能評価改善につながることを示唆されたのでここに報告する。

【症例】

患者:91歳、女性 主訴:右下腿皮膚壊死、下肢疼痛、足趾の痺れ 既往歴:不眠症、うつ病、DLB疑い 現病歴:2022年6月 庭先で転倒し体動困難となり、近医受診。左脛骨高原骨折の診断で入院加療となる。受傷時に右下腿前面に挫創あり、皮膚壊死認められ、同年7月 手術目的で当院転院となる。

内服薬:ロナセン8mg 朝食後、ルボックス50mg 朝食後・夕食後、リスペリドン1mg 夕食後、トレドミン50mg 眠前、ルネスタ1mg 不眠時

【認知面の評価方法】

認知症評価には、改訂版長谷川式簡易認知評価スケール(HDS-R)を使用(HBO7回、11回、20回、28回目終了後、翌朝に評価)。認知面の重症度評価には、N式老年者用精神状態尺度(NMS)を使用(入院当日とHDS-Rと同日に評価)。なおADLが床上のためNMSは会話、記憶、見当識の3項目で評価した。脳の形態評価には頭部画像検査を用いた。

【創部の経過】

入院1日目から抗菌薬投与開始し2日目からHBO開始。HBOには第1種装置を用い、治療は2.0ATA下60分、治療回数30回、週6回おこなった。入院3日目に右下腿前面のDebridement施行。以降、HBO、抗菌薬投与等の治療を継続し創部治癒を認めた。

【認知面の経過】

前医では異食行為や幻視がみられ、HDS-Rは10点(即時記憶0点、視覚記憶2点、語想起・流暢性1点)であった。HBO前の頭部CTは脳室拡大、脳萎縮認めるが年齢相応であり、海馬萎縮は認められなかったが、幻視を認め、NMSも7点(会話3点、記憶1点、見当識3点)だった。HBO2回目は治療に対す

る拒否強く、継続困難となり中断。HBO3回目も装置のアクリル板を叩く行為がみられていたが、4回目以降は穏やかに治療を受けられるようになり、7回目後のHDS-Rは23点(即時記憶3点、視覚記憶4点、語想起・流暢性4点)、NMS17点(会話5点、記憶5点、見当識7点)と上昇みられた。11回目後のHDS-Rも22点(即時記憶2点、視覚記憶4点、語想起・流暢性5点)、NMS15点(会話5点、記憶5点、見当識7点)であった。しかしHDS13回目以降、夜間に不眠、不穏が度々みられ内服薬を追加服用されていた。HBO中に不穏はなかったが、20回目後のHDS-R19点(即時記憶2点、視覚記憶5点、語想起・流暢性5点)、NMS13点(会話5点、記憶3点、見当識5点)、28回目後のHDS-R16点(即時記憶3点、視覚記憶5点、語想起・流暢性2点)、NMS13点(会話5点、記憶3点、見当識5点)と点数の減少がみられた。またHBO後の頭部画像所見はHBO前と変化がみられなかった。

【考察】

HBO開始後のHDS-RではHBO開始前と比べ、即時記憶、視覚記憶、語想起・流暢性で改善が認められた。これはHBOが脳の微小循環に働きかけることによって、脳血流を改善させ、組織への酸素供給を促し、認知機能を改善させた可能性が示唆された。本症例ではHBO20回目以降のHDS-R、NMSで点数の減少が認められた。入院期間が長くなるにつれて、不眠・不眠を認め、夜間にリスペリドンを追加で服用することが増えていた。認知評価の前日もリスペリドンを追加服用されており、その副作用で傾眠であったことが影響したことが考えられる。

今回、治療気圧は2.0ATAで治療を行ったが、HBOが認知機能を改善に期待できるとすれば、より高い治療気圧にすることで脳血流を改善させ、認知機能評価をさらに向上させることができるのではないかと考える。

【結語】

今回、HBOが皮膚壊死の改善に加え、DLBの認知機能評価改善につながることを期待された一例を経験した。今後はHBOの治療圧力や治療回数などの検討や脳血流評価をし、HBOが認知症患者の認知機能改善に有用か引き続き検討したい。

【結語】

本校掲載にあたり、末筆ながら、多忙にもかかわらずご協力頂いた水俣病院 大内清先生に心より厚く御礼申し上げます。